

## 課題⑤

オーディション対象…実業家、経営者

設定…バーの経営者

場所…企業の社長室

扉を叩く音（コンコン！）

「どうぞ。」

女性店員を満面の笑顔で迎え、ソファーに座るように促す。

「（何か言おうとする女性の言葉を遮るように）妹はね、小さいころから活発でね。」  
胸のポケットから写真を一枚取り出すと、女性の前に差し出す。日本人離れた鼻筋の通った清楚な美人が写っている。

「20歳のときに、大企業のご子息と良い仲になってね。」

タバコに火を点けると、ソファーから腰を上げ、窓の縁にもたれかかる。軽くタバコを吹かし、外の景色に目をやる。

「すぐに男の子ができて、そりゃあもう、幸せそうだったよ。でも、旦那がすぐに戦争に出てしまってたね…。未亡人には冷たいものよ。家に居られなくなってるね。器量良かったから…。それなりに生活費を稼ぐことはできたけど、そんなもの、何年も続くもんじゃない。」

黙って話を聞く女性。

「子どもといっしょに姿を消してしまつて。ちゃんと見ていてやれなかった…。」

今にも灰が落ちそうなタバコを灰皿に押し付け、ソファーに戻る。

「ここにいる子たちは、みんなそれぞれに事情を抱えている。器量のいい子が得をす  
る世の中かもしれないけれど、ここは体を売る店とは違う。でもね、あの子たちも、  
それなりのお金がないと、次に何もできないんだ。」

「（黙っている女性に）もう少しだけ頑張ってみないか？」